

# A MEANINGFUL ORDER

## OK-RM

04.27 – 07.07.2024

A MEANINGFUL ORDER by OK-RM at X sign Space, Hangzhou  
Commissioned by Mei Shuzhi, curatorial assistance of Michela Zoppi,  
display apparatus in collaboration with Alexandra Gerber,  
exhibition production, translation, logistics at X sign Space  
(Wang Yangyang, Lu Xinyi) and translation by Qianfan Gu.



OK-RMの作品だけで構成される初の大規模展は、15年以上にわたって制作された作品群を振り返る。命題の探求という形で発表されるこの展覧会は、OK-RMの活動のあり方を支える基本的な理念、信念、プロセス、メソドロジーを明らかにする。「意味ある秩序 (Meaningful Order)」とは、視覚文化に対する姿勢であり、動かし方であり、調和の探求、研究プロジェクト、追求であると理解される。

現代文化が重なり合う場所に立つOK-RMは、従来の分類を無視して、分野を越えたダイナミックな対話を追求する。あらゆるプロジェクトを集約的な提案に変える体系的アプローチを通じて、OK-RMは、信念、流儀、そして行動的実在、時間的、物質的実在を問いかけ、この世にいることの意味、共に働くことの意味を (再) 考察することを最終的に目指す。

この展覧会は、さまざまな性質を持つプロジェクトを再度文脈にあてはめ、再解釈する空間を提供しながら、実践と理論のやり取りを明らかにし、問いかける能動的な場となる。また、さまざまなメディア、媒体、背景、分野にまたがる複数のプロジェクトを紹介し、集団的実践の基本的価値を実証する。OK-RMは、そのダイナミックな作品群を一カ所に集め、自らのリサーチの分析を作り出すという初の試みを世に送る。

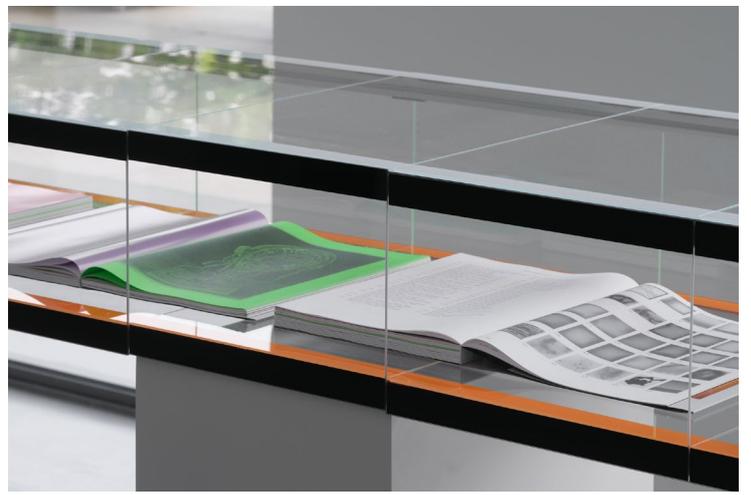
OK-RM, founded by Oliver Knight and Rory McGrath in 2008, is a design studio intent on pushing the potentialities of what a design practice can be. For Knight and McGrath design is here understood – in its broadest sense – as a means of communicating, a transitive verb that operates laterally across disciplines and media. Based in London and working globally, they embrace the contradictions and confluences enabled by an interdisciplinary dialogue, operating at the pivot point where attitude becomes form.

Each project pursued by the studio – be that a book, a film, an identity, an exhibition or an installation – grows out of a process of conceptually rigorous investigation, with Knight and McGrath attending closely to both the formal properties and the contextual nexus within which the project participates. A project is thus a proposition, a means to interrogate beliefs, procedures, behavioural, temporal and material realities, and (re)consider what it means to be in the world, and work together. Indeed, working together is at the heart of their studio practice. This approach often results in long-standing collaborations, notable

examples have included Goldwin O, 1017-ALYX-9SM, T.T, JW Anderson, Strelka Institute, The MET alongside cultural protagonists such as Virgil Abloh, Juergen Teller, Andrew Bolton, Fos, Kirstine Roepstorff, Coco Capitán and Gabriel Kuri.

Between 2017–21, Knight and McGrath were professors of Spatial Design at ISIA Urbino in Italy. They have participated in international conferences and symposia at various institutions, including Werkplaats Typografie, RCA, RISD, ECAL, Elisava and the REDO Conference. Rory McGrath was a member of the Most Beautiful Swiss Books from 2017 to 2021. OK-RM's works are featured in museum collections and have been exhibited internationally; for the last three consecutive years, they have been awarded the Tokyo Type Directors Club prize, alongside winning the Grand Prix at the BRNO Biennale in 2018.

Extending the curiosity and nuance of OK-RM, InOtherWords was founded in 2015 as a means to further pursue collaborative exchange within the book form. So far, they have been responsible for publishing 30 titles and are in the process of producing several more.



はじめに  
オリバー・ナイト&ローリー・マクグラス (OK-RM)

「意味ある秩序」は、新たな視点を得るとともに、私たちの15年間の成果を別の目的で使うことを目指して立ち上げられたリサーチプロジェクトの初めての一般公開に私たちがつけたタイトルです。これは、まさにその本質上、ある目的を果たしていた作品を別の目的のために再利用することの潜在的可能性について、自由な問いかけを繰り返す一つの方法です。私たちが期待するのは、この新しい機能が、私たちの活動を形成するアイデア、プロセス、メソドロジーを巡る会話のきっかけになることです。

私たちは、作品を作り上げるという、ひたすら没頭する作業から一歩引いて、作品の本質を問いかけることができる舞台を用意します。なぜ私たちはこれを実行するのか。どうやって実行するのか。その目的は何か。そして最終的に、それは世界にどのような反響を起こすのか。

言語からイメージへ、コンテキストへ、哲理へ、精神性へ、そして今度は技術へと戻っていく真剣な問いかけが状況を形成し、会話の呼び水となります。そのメソドロジーは再論され、再構築されます。会話を通じて興味の対象が形になるにつれ、ゴールポストが動きます。この段階を「リサーチ」として認識することは、「知識を得る」という目的を明確にする上で役立ちます。

デザインのディスコース（語り合い）について検討することは容易な作業ではありません。商業的可能性と、サービス主導のマーケティングアプローチへの果てしない欲求という永遠に回転する車輪によって広く採用され、商品化されるようになった一つの学問領域において、私たちは、批判的思考と有意義な社会的関与を追い求めつつも、しばしば疎外感を覚えます。

私たちは、この展覧会を会話のきっかけとすることによって、この学問領域が、待ち望んでいた議論に再び加わることを望んでいます。私たちの作品は外界から隔絶された場所に存在するわけではありません。私たちの活動の中心はまさに会話です。それは、同じ時代に生きる人たちや幅広いコラボレーターのネットワークとの会話であると同時に、歴史との会話でもあります。時の流れの中で自らの位置を意識することによって、私たちは、今をもっと上手に渡っていくために過去を振り返ることの大切さを理解します。つまり、私たちは、過去との対話の中で、現代への批判的反応を形成するのです。この展覧会のタイトルは、デザイナーであり教育者でもあったヴィクター・ババネックの言葉を借りたものです。彼は1965年に、商品である工芸品のレイヤーを切り裂きました。デザインの社会的目的の再考が促されることを期待して、覚醒を求め、切迫した状態を引き起こしたのです。「デザインとは、意味のある秩序をもたらすための意識的かつ直感的な活動だ」。デザインとは、世界を理解する方法であり、私たちを有意義に変容させ、可能性を与える有形物と無形物を創造する方法だとババネックは主張しました。この主張は、デザインが疑問を投げかけ、限界を押し広げる手段であることを鮮やかに思い出させてくれます。

展示中の作品は現在、暫定的に6つのカテゴリーに分けられています。これらは、私たちのリサーチを明確に伝え、表現するための肥沃なコンテキストを提供します。

1. フレームとコンテンツ
2. 概念的枠組み
3. 手順の経済
4. 歴史のプラグイン
5. オブジェクトと表現
6. オーケストレーション

「フレームとコンテンツ」は、デザインを構成する体系的、かつフレキシブルな要素だと私たちは理解しています。一方、「概念的枠組み」は、行動あるいはメソドロジーを導く全体的な条件です。

「手順の経済性」とは、経済性を最優先として設計され、開始されたフレームワークです。「歴史のプラグイン」とは、文化の中に存在し、再検討、表現、再文脈化されようとしている、深遠な歴史的遺物や慣習のことを指しています。「オブジェクトと表現」は、オリジナルのオブジェクトを一つのイメージに変換することが、どのようにして新たな意味を生み出す可能性があるかを深く考察します。最後に、「オーケストレーション」は作品全体を包含します。私たちは、自由な意図をもって演出されたシステムを作り出し、他者とつながって命題の意図を共有することができます。

私たちのプロジェクトは互いに孤立しているわけではありません。私たちの批判的スタンスとの関係においても、形式的関心との関係においても、進化し続ける配置の中で、その位置は動いているのです。モジュール型の展示装置は、このような現実を表しています。パーツ一式として、陳列ケースは、新たな関連付けが促されるように配置され、方向付けされ、結合されています。ガラスとアルミニウムの押し出し型材で形作られた陳列ケースは、いくつもの構成に対応し、現場で効率よく組み立てられるように設計されています。この展覧会のために初めて使われるもので、これがプロトタイプです。簡単に分解し、持ち運び、組み立て直すことができるこの装置は、私たちの好奇心をそそります。私たちは将来、さまざまな方法でこの作品を編成することができますでしょう。